UNDB-J認定連携事業
活動記録

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）
2020.11

認定連携事業活動の成果と課題

- UNDB-J認定連携事業は、UNDB-J設立の1年後にスタートし、およそ、年2回の認定を行い、**全16弾173の取組を認定**連携事業とした。
- 愛知目標、ないし、生物多様性の取組は、NGOや自治体、企業が単独で行うものではなく、「連携をして取り組むもの」という価値観をメッセージとして発信し、世界でも稀有なマルチステークホルダー・プラットフォームである**UNDB-Jの特徴を端的に示す取り組みの一つ**と言える
- 海外・全国・各都道府県別の認定連携事業数を見ると、およそ、にじゅうまる登録事業の**10%にあたる取組が認定**されている。事業実施団体数の割合からは、**自治体・教育機関の取組**がにじゅうまる登録割合よりも多く、他薦の仕組みが活かされ、より**バランスの取れた認定・ユースによる活動の奨励につながる認定**が行われている。
- 「生物多様性ながれやま戦略」といった、コンテスト系の表彰制度では、注目されにくい取り組みなどにも光をあてられた。

認定連携事業活動の成果と課題

- 国際自然保護連合日本委員会が、地球環境基金や経団連自然保護基金の支援を受けながら、候補事業のベースとなるにじゅうまるプロジェクトの宣言（簡単なスクリーニングも実施）を集めていたことから、**候補選定は低コストで運営**できた（認定後にその事業を問題視する声も聞かれていない）
- 事業の後半になるにつれ、**企業関係者による、認定への期待の声**が聴かれ、企業関係者から積極的に、にじゅうまるプロジェクトに登録したいという相談を受けることもあり、にじゅうまるプロジェクトにも恩恵をもたらした。
- 同じく、後半になるについて、認定連携事業として積極的に推薦したいという事例が多く、UNDB-J委員団体（多くはネットワーク団体）の**メリットにもつながったと推測**できる。
- 認定による効果を実感している団体は25％（2019年アンケートによる）。**課題として、認定後の広報、UNDB-Jそのもの認知度の不足**が挙げられる

1. 連携事業の認定とは

多様な主体の連携：多様な連携や、活動加速の効果
取組の重要性：工夫された仕組み・保全等に高い成果
取組の広報の効果：活動やアイディアの横展開
　が期待されるとしてUNDB-Jが推奨する活動

＊多様な連携の基準は、2014年に、業種間の連携を推進する取組（例、電機電子業界生物多様性指針）や、地域での連携拠点となる取組（例、生物多様性地域戦略）が加わっている

国連生物多様性の10年日本委員会

にじゅうまるプロジェクト
for Life on Earth 2011－2020

- 年2回の認定タイミング　およそ9月と3月
- 1回に10程度の事業が認定
- 認定後、認定証の交付や全国MTGでの表彰、
- ウェブ掲載など。（奨励金などはない）

「連携事業の認定」が提示した価値観

- 生物多様性の国連目標である、愛知目標を皆の行動に置き換えることを促進

- 誰が、どこで、どんな目標に取り組んでいるかを見える化＝行動をはかる指標・モニタリング

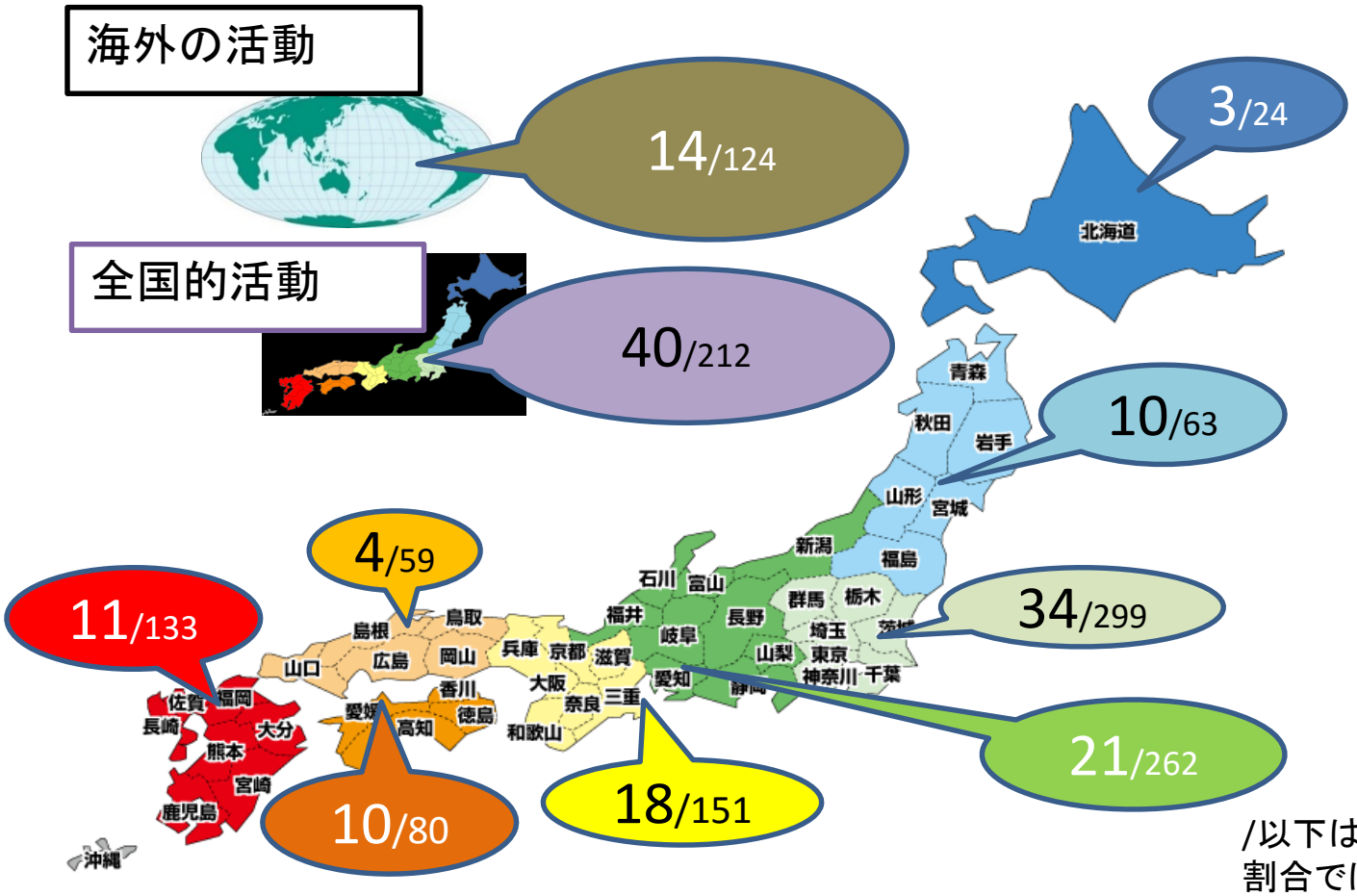
- 目標達成のために、**UNDB-Jは連携を大事にしている**（という価値観の提示）。アイディアあふれる取り組みを知ってもらって、皆の活動をレベルアップ！

２．運営体制

- IKITOMO推進事務局を、国際自然保護連合日本委員会が運営
- 総合事務局との協議、委員への連絡調整、認定事業団体との連絡・審査や広報資料作成の調整などの実施
- UNDB-J支援事業（寄付金）より、年40万円の支援
- 後半になるについて、認定連携事業として積極的に推薦したいという事例が多く、UNDB-J委員団体（多くはネットワーク団体）のメリットにもつながったと推測できる。（推薦は12団体53事業。自治体ネットワークが26件と多いが、NGOや教育機関などに多岐にわたる。国土緑化推進機構（6件）、わかものネットワーク（5件）と続く）
- 認定後に「ふさわしくない」などの批判の声は事務局には届いてない。

3. 最終実績　16弾、173事業

＊一つの事業が複数県にまたがって実施されている場合各県ごとに1カウントされている

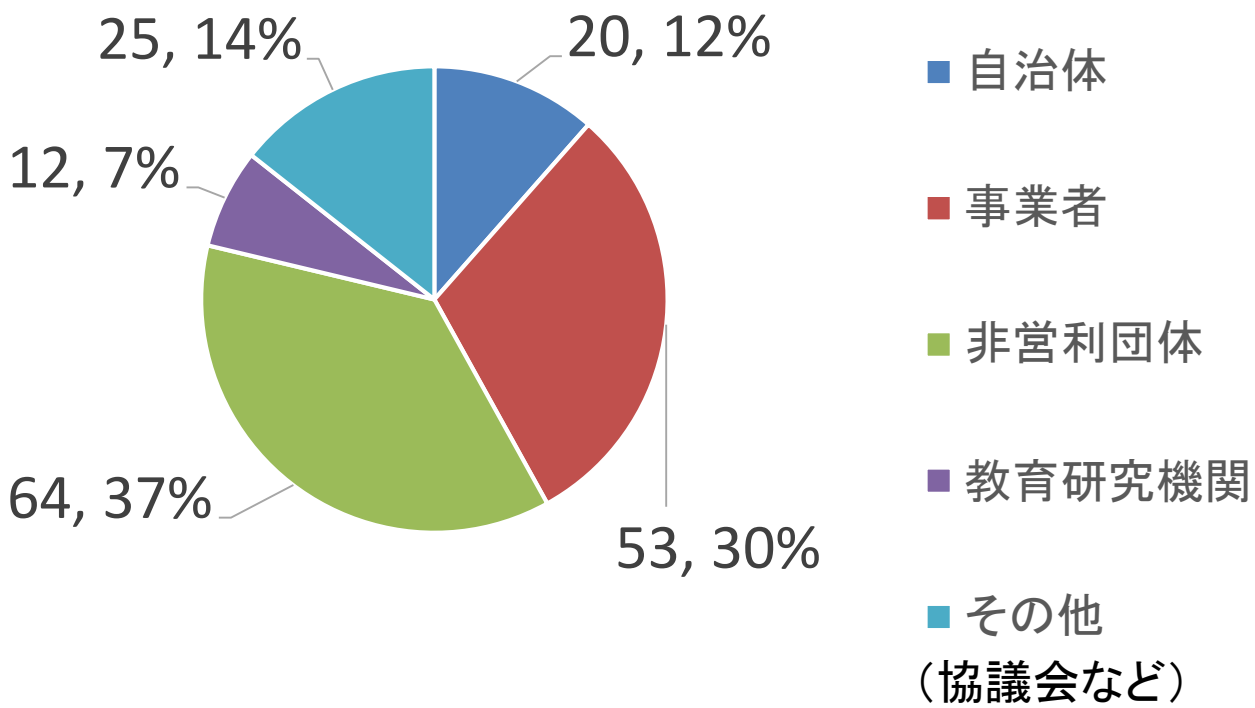


/以下は、にじゅうまる宣言の母数
割合では、全宣言の10%前後

認定連携事業が展開されていた都道府県では、
　愛知（10）、神奈川（8）、徳島（7）、千葉（6）、三重（6）の順となった
認定連携事業の<u>運営団体所在地</u>では、
　東京（49）、愛知（10）、神奈川（10）、千葉（9）、大阪府（8）の順なった。

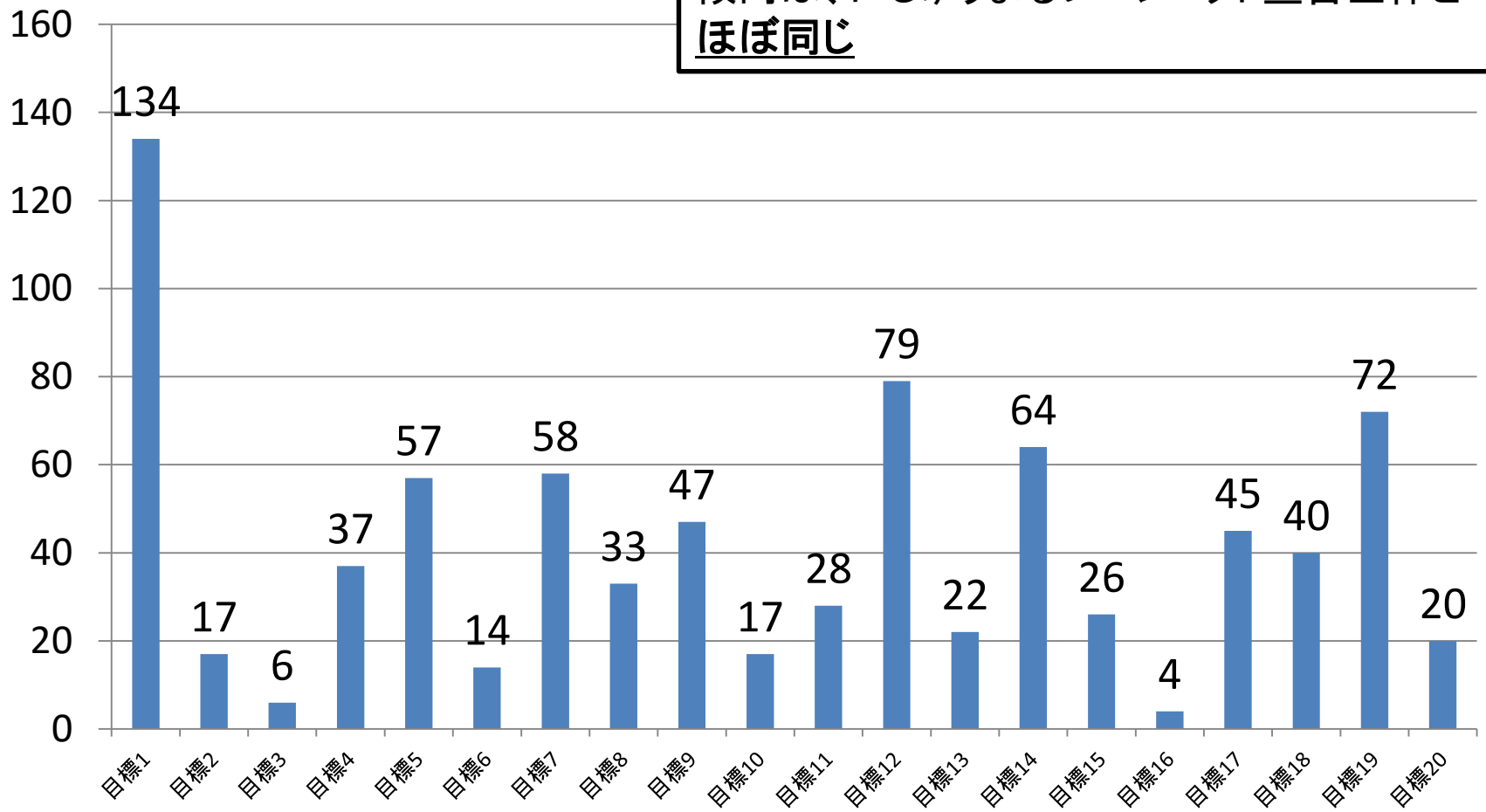
団体種類ごとの認定連携事業数と割合（件数、全体に占める割合で表示）

にじゅうまるプロジェクト宣言全体と比べると
教育（3%）・自治体（7%）の割合が若干多い。



愛知目標別認定連携事業数

傾向は、にじゅうまるプロジェクト宣言全体と**ほぼ同じ**



認定後の動き（広報）

- 環境省による報道発表
- UNDB-Jウェッブサイト
  Facebookでの紹介
- UNDB-J全国フォーラムでの認定証授与（自主参加団体のみ）
- UNDB-J全国/地域フォーラムでの事例発表（一部）
- 冊子「IKITOMO」での紹介（一部）
- 民間参画優良事例集での紹介（一部）
- IUCN-J、環境省、経団連自然保護協議会等による、優良事例としての紹介や推薦（一部）
- COPの展示で紹介（一部）

（参考1）
UNDB-J認定連携事業
認定団体アンケート結果

国際自然保護連合（IUCN)
日本委員会事務局まとめ
2019.03.05

アンケート概要

- 実施期間

2018年11月20日～2018年12月14日

- 対象

認定連携事業第1弾～第13弾の受賞団体

（計144団体）

- 回答数

51件（うち無記名回答5件）

・設問内容

アクション大賞とそろえ、認定後の認知度・参加支援者・事業発展について3段階での質問と自由記述。なお、無記名回答も可能とした。

結果概要

- **<u>連携事業の認定により、およそ4分1が、認知度向上・支援者増・事業の発展につながっている。</u>**

＜肯定的な意見＞

「経営層含む社内コミュニケーションの円滑化」「予算獲得の支援」「事業当事者のモチベーション向上」「連携団体間の意識醸成」「対外的な信頼度の向上」など

＜否定的またはどちらともいえない　意見＞

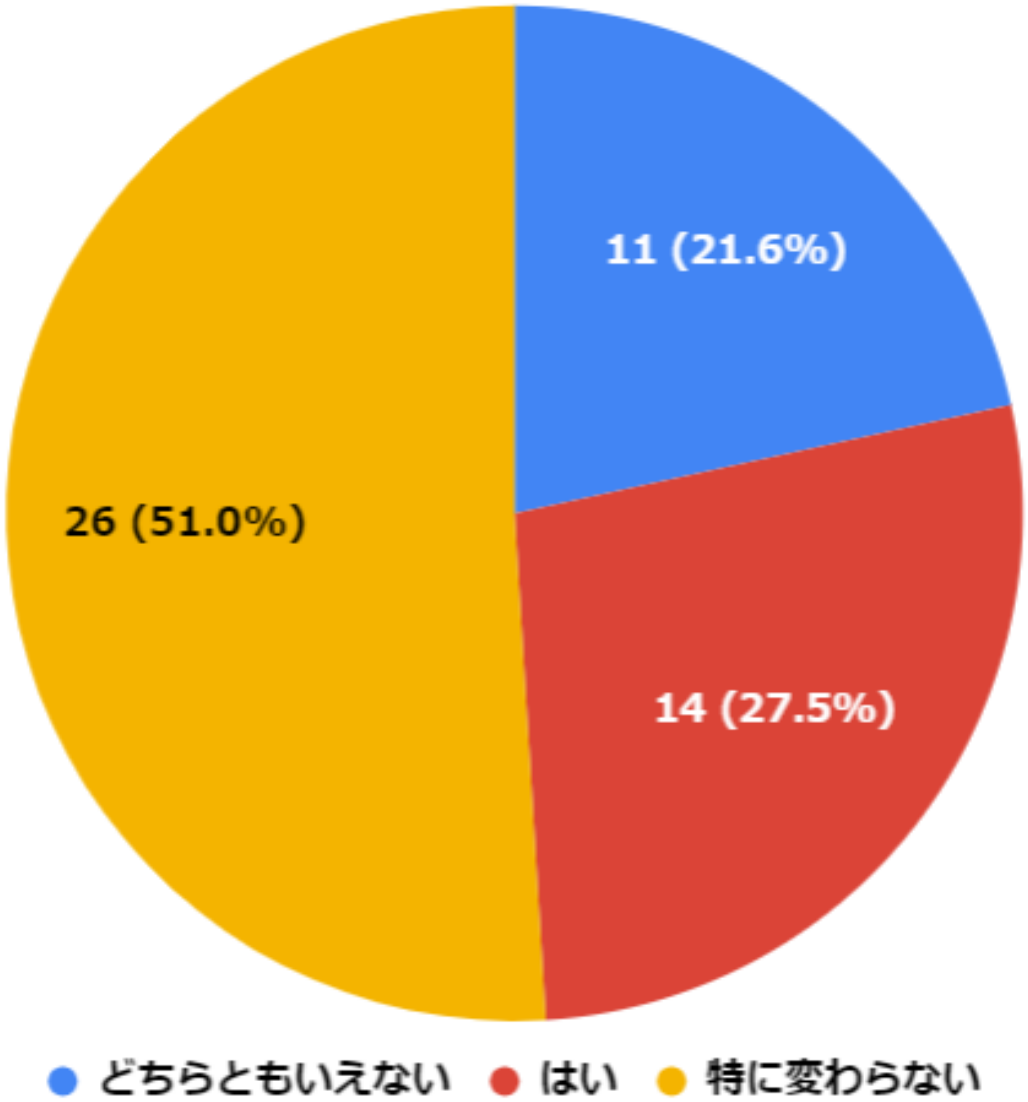
「生物多様性・愛知目標・UNDBそのものの認知が低いため、対外的発信の効果が薄い」「既に一定の認知度があるため追加的な効果は限定的」「自社の認知度や商品の売り上げ等の数字に大きな変化は見られない」など

結果補足：アクション大賞との比較
結論：性質が異なり、特徴にあわせた活用が重要

項目	認定連携	アクション大賞
表彰の効果	25％（12団体、母数144団体、回答数51団体）	80％（12団体、母数35団体、回答15団体）
受賞事業の違い	他薦中心 生物多様性志向の取組多い	自薦・厳選・競争型 5つのアクションに基づく日常性の高さ
年間受賞数	年　20件程度	年　大賞・特別賞は、10件程度（審査員賞・入賞含めると50件）
受賞団体	NGOや企業、教育機関に加え、自治体（地域戦略）などもある	NGOや企業、教育機関などが中心になりがち

＊その他、運営コスト面も異なる。アクション大賞には、多額の予算を支えてくださる協賛企業があり、協賛企業巻き込みによる効果も高いと考えられる。

【Q1-1】
認定を受けたことで、地元や関係者間の認知度が上がり、活動がしやすくなりましたか？



【Q1-2】
Q-1-1の回答について、その状況を具体的に教えてください。

＜特に変わらない＞

- 国連生物多様性日本委員会の10年や認定事業の知名度がない
- 今までも地域では一定の理解を得られていたから

＜どちらともいえない＞

- 広報チラシやHPなどで積極的にロゴなどを使用して広報しているが、これに対する反応を直接聞いたことがない
- 全国レベルで「愛鳥活動」認知度のデータを定期的に計測していますが、認定を受けたことによる変動は把握できません。
- 認知度は上がったが、特に活動がしやすくなったということはない

＜はい＞

- 新規で企業様に営業に行く際、認定されていることをあわせてお伝えすることで、より信用度が高まり、実施に向けての後押しとなっているように思います。
- 市や、学校関係など公共に係る方々に説明する際に活動を理解していただきやすくなったと思う
- 認定ロゴの使用により、活動の信頼性が高まった。
- 認定活動以外にも活動を登録していただいた各拠点に報告することで大変喜んでいただき、今後も継続して活動することを約束した

Q1-1で「はい」と答えた人のグルーピング

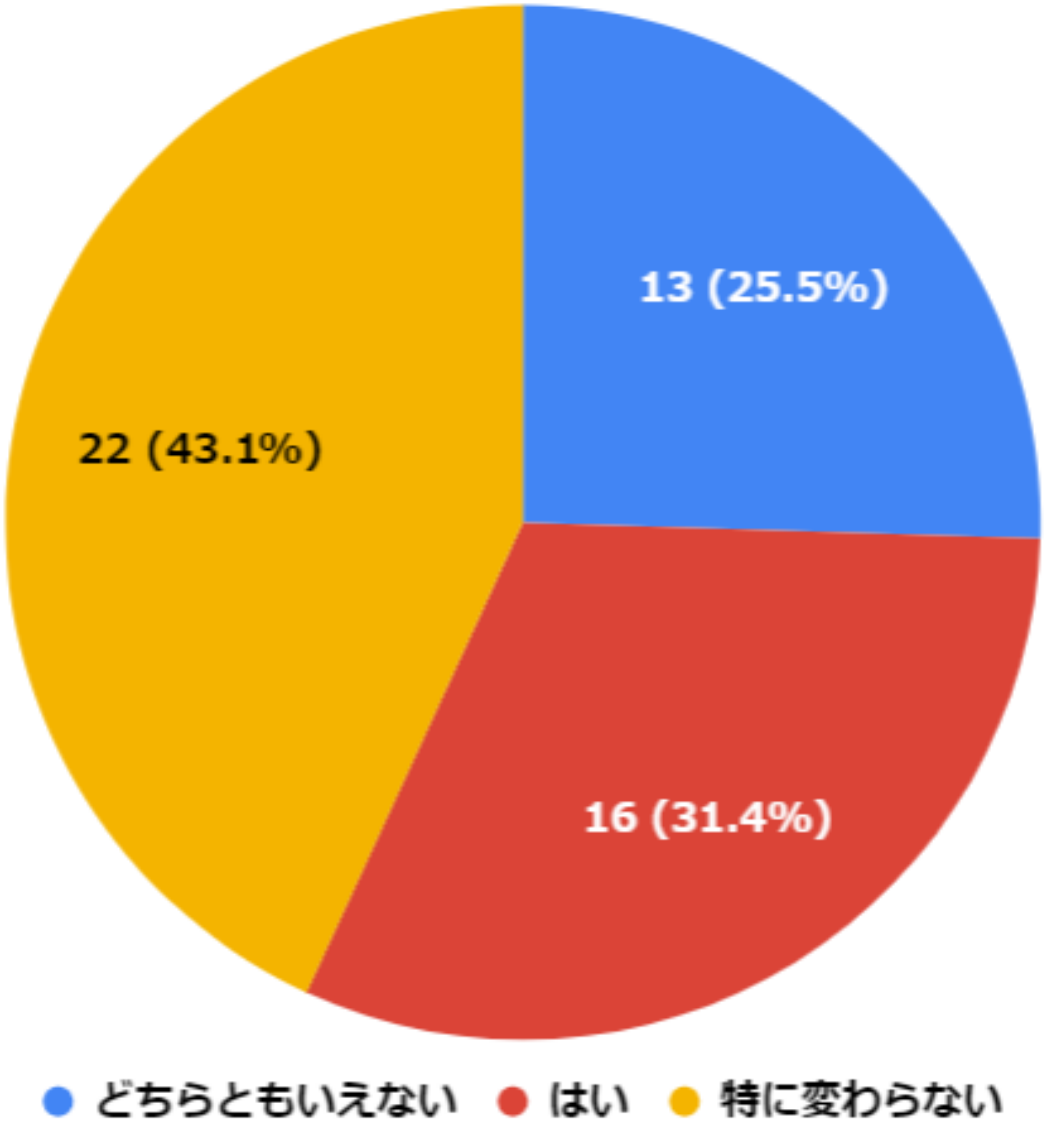
＜対外的な信頼・評価の向上＞

- ローカルな名前を配した活動団体ですが、活動の評価が高い団体だと認識してもらえている。
- シンポジウム開催や国内外の学会発表などにおいても有効
- 新規で企業様に営業に行く際、認定されていることをあわせてお伝えすることで、より信用度が高まり、実施に向けての後押しとなっているように思います。
- 市や、学校関係など公共に係る方々に説明する際に活動を理解していただきやすくなったと思う
- 認定ロゴの使用により、活動の信頼性が高まった。
- 活動のコンセプトなどについて啓発できるようになる。

＜内部における信頼・評価の向上＞

- 認定活動以外にも活動を登録していただいた各拠点に報告することで大変喜んでいただき、今後も継続して活動することを約束した
- 受賞により、社内における活動の認知度があがりました。
- 外部からの評価を得たことで4団体内部や傘下企業においても活動への理解・評価が一層高まった。
- 生物多様性にかかわる事業は短期的な成果が見えずらく、経済性を伴った事業に比べ、必要性を訴えるのが難しい。権威ある機関から認められることで、箔が付き、庁内における予算獲得などで多少なりとも優位になったと感じる。

【Q2-1】
認定後、理解者や協力者、活動への参加者が増えましたか？



【Q2-2】
Q2-1の回答について、その状況を具体的に教えてください。

＜特に変わらない＞

- そもそも、拠点ごとに独自に活動を活発に展開しているので変わらないと感じている
- そもそも認定されたことがまだ市民にほとんど認知されていないためあまり変わらない
- にじゅうまるプロジェクトの認知度が低い

＜どちらともいえない＞

- 参加人数は増えているが、認定の前後で大きく参加人数が増えたとは言えない。
- 湘南タゲリ米の販売数や、会員の入会数など数値で示すことができる事項は変わっていません。

＜はい＞

- 取り組みが意味あるものだと理解してくださる人が増えた。
- 協賛企業、協力団体等との連携が深まった。
- 本年度における新入会者が20名を数えることになった。
- 認定団体のサイトを見て、県外の他団体から講演依頼が1件ありました。
- 生物多様性に関わる団体や省庁からの信頼も高くなり、質の高いイベントの誘致や共に行動してくれる団体が増えた。
- 活動に許可が必要になったり、新たに協力を求めたりする際に認定を受けている旨も伝えると、活動への信頼度が上がり、協力を求めやすくなっています。

Q2-1で「はい」と答えた人のグルーピング

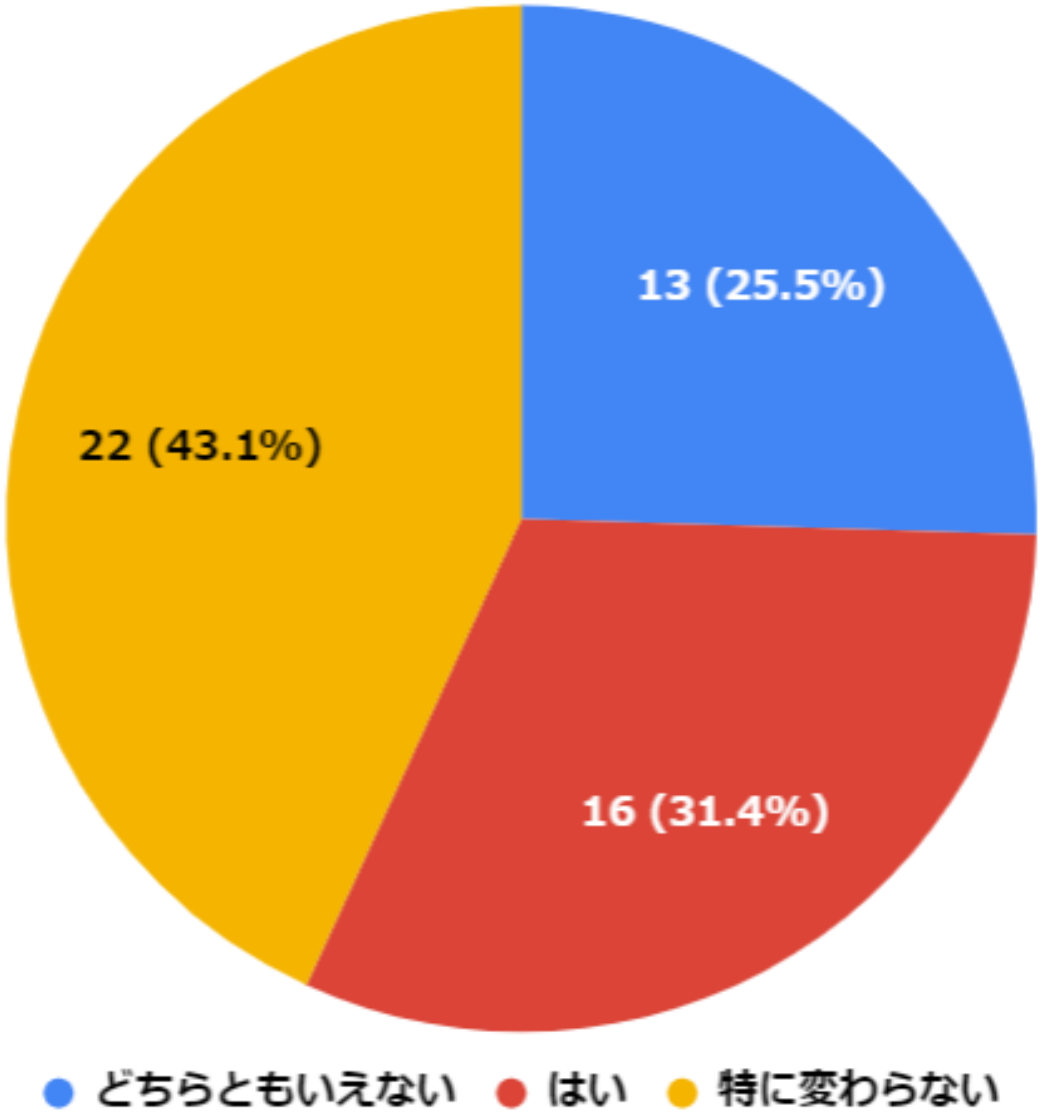
＜理解者が増えた＞

- 特に政府や自治体などには話が通じやすくなったように感じているが、認定されたからなのかどうかについては確認できていない。
- 取り組みが意味あるものだと理解してくださる人が増えた
- 皇太子ご一家、秋篠宮ご一家をはじめ多くの方にご理解を得ることが出来た。
- 社会貢献活動への理解が多少は深まったように思われます。
- 活動のコンセプトなどについて啓発できるようになる。

＜実際に活動に参加する人・協力者が増えた＞

- 参加者がふえましたが、協力者はあまり変わっていない
- 本年度における新入会者が20名を数えることになった。
- 協賛企業、協力団体等との連携が深まった。
- 認定団体のサイトを見て、県外の他団体から講演依頼が1件ありました。
- 生物多様性に関わる団体や省庁からの信頼も高くなり、質の高いイベントの誘致や共に行動してくれる団体が増えた。
- 活動に許可が必要になったり、新たに協力を求めたりする際に認定を受けている旨も伝えると、活動への信頼度が上がり、協力を求めやすくなっています。

【Q3-1】
受賞する前より、さらに大きな成果や新しい活動に繋がりましたか？



【Q3-2】
Q3-1の回答について、その状況を具体的に教えてください。

＜特に変わらない＞

- 三好市の市長や担当に報告したが「そうでしたか」のような反応
- 地域内外で、国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業の理解者等の間では、当地域の活動に理解を得ているが、まだ事業そのものの認知度が低く、活動の幅が広がるところまで至っていない。

＜どちらともいえない＞

- 新商品開発(まんじゅうやバームクーヘンなど)が進んでいますが、その際に間接的には役立っているかもしれない。ないよりあったほうが良い程度
- 環境関連のシンポジウム（共催）のお話を頂き過去何度か実施したことがあります。生物多様性については、個々の団体で推進を図るのが難しい分野と感じているので、関連団体等と連携しながらイベント等を開催出来れば効果的だと感じています。

＜はい＞

- 社内で役員に受賞を説明する機会が得られ、プロジェクトへの理解がより深まった。
- プロジェクトに自信が得られたため、生物多様性アクション大賞へのエントリーにつながった。
- 無農薬の田んぼが広がり、組合員の利用も増加しています。
- 他の活動についても追加申請を行い、活動に対するインセンティブの向上に繋がった。
- 国内9基（私道、市道、県道、国道、高速道路下）、海外1基（鉄道上）に設置 し、ニホンヤマネ、ニホンリス、ヒメネズミ、モモンガ、ホンドテンおよび多くの樹冠昆虫類などが利用。またBBCや国内TVでも放送され、現在放送中のドラマでもアニマルパスウェイのイメージが利用されている。

Q3-1で「はい」と答えた人のグルーピング

＜内部における新たな成果＞

- 社内で役員に受賞を説明する機会が得られ、プロジェクトへの理解がより深まった。
- ネットワークへの参画企業が増えました。
- プロジェクトに自信が得られたため、生物多様性アクション大賞へのエントリーにつながった。
- 他の活動についても追加申請を行い、活動に対するインセンティブの向上に繋がった。
- 社会貢献活動への理解が多少は深まったように思われます。
- 無農薬の田んぼが広がり、組合員の利用も増加しています。
- 簡単にはやめられなくなった。

＜外部での新たな成果＞

- 国内9基（私道、市道、県道、国道、高速道路下）、海外1基（鉄道上）に設置し、ニホンヤマネ、ニホンリス、ヒメネズミ、モモンガ、ホンドテンおよび多くの樹冠昆虫類などが利用。またBBCや国内TVでも放送され、現在放送中のドラマでもアニマルパスウェイのイメージが利用されている。
- 活動参加園数、協力団体の増加。
- 生物多様性保全のための、当社の新たな取り組みにも共感してもらい、想いでつなごうおりがみアクションなどにも、イベントやワークショップで協業させてもらっている。
- 生物多様性活動に関心のある方や団体と連絡をとることが増えつつある気がする。

【Q4】
上記の他で、認定されたことにより、貴活動に与えた効果や影響等を教えてください。

＜内部における新たな成果・影響＞

- 弊社、東芝Gr内でも認定されているのは今治事業所のみなので、生物多様性に対する取り組みに対し先端的な位置となっている。東芝環境監査（受査）にても高評価です。
- 団体内部で取組の方向性について、大きな自信を得ることができた。全国的・世界的な生物多様性保全の活動に通じているNPO／NGOや行政職員に対しては、団体・活動の信頼度が高まったと感ている。
- 事務所内の意識が高まったように思います。
- 以前よりもより生物多様性の重要性を若い世代に伝えていくという意識が高まった
- 企業経営的には人手不足が深刻となっている昨今、あえて当プロジェクトの活動に人的資源を割くことへの社内コンセンサスを得られやすくなった。

＜外部における影響・成果＞

- この取組みでは、国内の自然環境を守るだけでなく、次世代育成を意識してサステナブル な社会の実現に取り組んでいます。2018年3月までに延べ739回のイベントを開催し、 37,409人の皆さまに参加いただいたこと自体がこの活動の好影響といえると認識しています。
- 自分たちの活動が世界的な課題である生物多様性の問題にアプローチしている重要な取り組みであることを説明しやすくなったのはとても良かったです。
- 国連の名称が大きい、IENE2016（仏リヨン）ではこれらもふくめベストポスター賞受賞
- NPO等の活動においては、活動の客観的な評価や信頼性の担保が重要と思われる。今回の認定において、その点をフォローしていただき、活動の大きな展開に繋がりました。御礼申し上げる。

（参考２）
第16弾までの認定連携事業一覧

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第1弾　2012.9）

事　業　名	団　体　名	地域
田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト	NPO法人ラムサール・ネットワーク日本	全国
生物多様性の道プロジェクト	公益財団法人日本自然保護協会	全国
Earthwatchにじゅうまるプロジェクト 市民参加型生物多様性調査による環境リテラシーの普及	認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン	全国
みんなで守ろう！　日本の希少生物種と豊かな自然！ SAVE JAPAN　プロジェクト	株式会社損害保険ジャパン 日本興亜損害保険株式会社	全国
ウミガメ類の生態調査・生息環境保全プロジェクト	NPO法人日本ウミガメ協議会	全国
海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト	海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト	東北
味わって知る　私たちの海	伊勢・三河湾流域ネットワーク	中部
御所実業高校農業クラブ　School Gene Farm Project	奈良県立御所実業高等学校農業クラブ	近畿
トンボの里プロジェクト	真庭・トンボの森づくり推進協議会	中国
徳島での生物多様性地域戦略の策定に関するプロジェクト	生物多様性とくしま会議	四国

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第2弾　2013.3）

事　業　名	団　体　名	地域
ICTと映像教材の活用による子ども向け次世代環境教育の推進	株式会社TREE	全国
動物園・水族館種保存事業	公益社団法人日本動物園水族館協会	全国
いのちの博物館実現プロジェクト	公益社団法人日本動物園水族館協会	全国
Come Back Goose ー甦れシジュウカラガン！ 日本の空にー	日本雁を保護する会	東北 海外
生命のにぎわい調査団等の普及啓発活動	千葉県生物多様性センター	関東
副業型林業による「さんむ木の駅プロジェクト」	NPO法人元気森守隊	関東
トキと暮らす島　生物多様性佐渡戦略	佐渡市	北陸
伊予農希少植物保全プロジェクト	伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム	四国
綾の照葉樹林プロジェクト	てるはの森の会	九州
海外希少野生動物保全支援活動	認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金	海外

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第3弾　2013.9）

事　業　名	団　体　名	地域
湿地のグリーンウェイブ	NPO法人ラムサール・ネットワーク日本	全国
公益信託経団連自然保護基金を通じた 自然保護活動支援	経団連自然保護協議会	全国
食農環境プログラム （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会 有限会社伊豆沼農産	東北
グリーンオイルプロジェクト	一般社団法人グリーンオイルプロジェクト	関東
宍塚の里山における自然と人の関わりにまつわる 聞き書きと多様な調査にもとづいた保全活動	認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会	関東
コウノトリも住める自然と共生する地域づくり （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	株式会社野田自然共生ファーム	関東
くれは悠久の森事業	悠久の森実行委員会	北陸
コウノトリと共生するまちづくり事業 （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	豊岡市	近畿
中海自然再生事業	中海自然再生協議会	中国
第十堰水辺の教室	川塾	四国
REDD+推進事業	一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン	海外

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第4弾　2014.3）

事　業　名	団　体　名	地域
生物と森を育む紙「里山物語」	中越パルプ工業株式会社	全国
ホタルの棲める環境づくり	株式会社熊谷組	全国
JTB地球いきいきプロジェクト	株式会社ジェイティービー	全国 海外
「生きもの豊かな田んぼ」の取り組み （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	株式会社アレフ	北海道 東北
環境保全型農業の推進と生物多様性登米戦略 （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	登米市	東北
ラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地の賢明な活用推進事業 （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	小山市	関東
流域コモンズによってよみがえる"さとのくらし"	森林塾青水	関東
多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進	東京湾再生官民連携フォーラム	関東
無印良品キャンプ場 『過剰なサービスは省きましたが、自然は豊かです』	株式会社良品計画	関東 中部
生きものも育む自然共生型田んぼづくり （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	九重ふるさと自然学校 （一般財団法人セブン-イレブン記念財団）	九州
フォレスト・オブ・ホープ	一般社団法人バードライフ・インターナショナル・アジア・ディビジョン	海外
黄海エコリージョン支援プロジェクト	公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）	海外

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第5弾　2014.10）

事業名	団体名	地域
ラムサールサポーターズ	MS＆ADインシュアランスグループ	全国
森と命を繋ぐアニマルパスウェイの開発と普及（樹上性野生生物の保全）	アニマルパスウェイと野生生物の会	全国
環境出前授業「地球1個分で暮らすために」プロジェクト	富士通株式会社	全国
自然観察指導員の養成	公益財団法人日本自然保護協会	全国
外来種駆除等環境保全活動	一般社団法人日本旅行業協会	全国
電機・電子LSBプロジェクト	電機・電子4団体環境戦略連絡会生物多様性ワーキンググループ	全国 海外
丸の内地区における生物モニタリング調査と「丸の内生き物ハンドブック」の発刊	三菱地所株式会社	関東
生きもの賑やか河北潟プロジェクト（田んぼ10年プロジェクト）	特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所	北陸
穂の国森の出前授業＆野外授業	特定非営利活動法人穂の国森づくりの会	中部
にじゅうまるプロジェクト四国	四国生物多様性ネットワーク	四国

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第6弾　2015.3）

事業名	団体名	地域
サンゴ礁保全プロジェクト	三菱商事株式会社	海外 九州
「イオン生物多様性方針」と「イオン持続可能な調達原則」に基づく取り組み	イオン株式会社	海外 全国
札幌ドームECO　MOTIONと大成エコロジカルプランニグ	株式会社札幌ドーム・大成建設株式会社	北海道 関東
西三河地区の樹木(在来種)による苗木づくりと、フクロウの棲む森づくり	ソニーイーエムシーエス株式会社 幸田サイト・コープあいち	中部
いきものたんぼプロジェクト	いきものたんぼプロジェクト	東北
植物多様性保全拠点園ネットワーク事業	公益社団法人日本植物園協会	全国
知ろう！伝えよう！生きもののつながりキャンペーン	横浜市環境創造局	関東
森林保全活動	学生団体ForestNova☆	関東
カシニワ・フェスタ	カシニワ・フェスタ実行委員会	関東
「あいち生物多様性戦略2020」に基づく生態系ネットワークの形成	愛知県	中部

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第7弾　2015.10）

事業名	団体名	地域
自然と農業と人が共生する村づくり~環境創造型農業の恵み~（田んぼ10年プロジェクト）	大潟村役場	東北
緑の回廊プロジェクト	NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	海外
野鳥保護区の設置	公益財団法人　日本野鳥の会	全国
ろうきん森の学校	労働金庫連合会	全国
電機・電子業界における生物多様性保全行動指針	電機・電子4団体環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ	全国
生物多様性ながれやま戦略及び関連事業	流山市	関東
松山市北条地域の生物多様性を支える ～トコロジスト育成と農地保全・交流人口拡大プロジェクト	森からつづく道	四国
いきもの学びねっと	公益社団法人 日本動物園水族館協会	全国
「えのすい eco」エコ アクション	新江ノ島水族館	関東
佐渡旅	早稲田大学　学生環境NPO 環境ロドリゲス　REC	中部 関東

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第8弾　2016.3）

事業名	団体名	地域
NEC田んぼ作りプロジェクト	日本電気株式会社（NEC)	関東
AKAYAプロジェクト	公益財団法人日本自然保護協会	関東
三浦半島生物多様性保全事業	NPO法人三浦半島生物多様性保全	関東
「ホタルも棲める良い自然」づくり	松本ホタル学会	中部
ひょうごの生物多様性保全プロジェクトの推進	兵庫県	近畿
舟志の森づくり	舟志の森づくり推進委員会	九州

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第9弾　2016.10）

事業名	団体名	地域
秋田県立大学生物資源科学部 アグリビジネス学科生産環境プロジェクト （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	公立大学法人 秋田県立大学	東北
淀川・ワンド保全活動	淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（イタセンネット）	近畿
生きものを育む田んぼプロジェクト （田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト）	かわごえ里山イニシアチブ	関東
日建連による生物多様性活動の推進および普及啓発	一般社団法人　日本建設業連合会	全国
自然科学系博物館・図書館の連携による 実物科学教育の推進	CISEネットワーク運営委員会	北海道
千年の森づくりをつうじた生態系の保全プロジェクト	一般社団法人 かみかつ里山倶楽部	四国
未来につなぐふるさとプロジェクト	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	全国
低炭素・循環型社会の形成促進に向けた カーボンプールマイスターの育成事業	特定非営利活動法人 環境修復保全機構	関東
水源地の里山を未来遺産にする活動	あざおね社中	関東
なごや環境大学	「なごや環境大学」実行委員会	中部

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第10弾　2017.3）

事業名	団体名	地域
住友林業グループ生物多様性長期目標と社有林や自然林復元活動における取り組み	住友林業株式会社	海外 全国
藤前干潟を守る「庄内川ペーパー」	大日本印刷株式会社	中部
田んぼの生き物調査(田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト)	生活協同組合コープ自然派兵庫	近畿
高知県における「暮らしの中の自然モノサシ市民調査」	特定非営利活動法人環境の杜こうち	四国
福岡市・博多湾の和白干潟をフィールドに、子どもたちの調査チームをつくり、干潟の生きもの紹介や魅力を発信する。和白干潟を啓発できる子どもレンジャーの育成。	ウェットランドフォーラム	九州
コウノトリの未来をデザインする　～全国へ　そして世界へ～	コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル(略称：IPPM−OWS)	全国
JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」	NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク	全国
里地里山保全及び鳥獣害対策、林業の復興活動	早稲田大学学生環境NPO環境ロドリゲス やまなび	関東
コウノトリが舞う里づくり戦略	越前市	北陸
里地・里山における生物多様性保全活動	里地・里山の保全推進協議会	近畿
福田川再生活動における多自然川づくりに向けた活動	福田川クリーンクラブ	近畿
とよおか自然再生アクションプラン	豊岡市	近畿
森林環境学習「やまのこ」事業	滋賀県、各市町教育委員会(滋賀県内)、滋賀県教育委員会	近畿

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

認定連携事業（第11弾　2017.9）

事業名	団体名	地域
野の鳥は野に	全国野鳥密猟対策連絡会	日本全国
次世代につなごう！！「千年サンゴ」保全プロジェクト	千年サンゴと活きるまちづくり協議会	徳島
ユニトピアささやま里山再生活動	パナソニック エコリレー ジャパン	兵庫
身近な自然に親しみ、環境保全の喜びを！幅広い世代との交流を！	藤沢　自然と親しむ会	神奈川
従業員ボランティアによる生物多様性保全への継続支援	富士ゼロックス　端数倶楽部	日本全国
生物多様性に配慮した持続可能な森づくり（森林ESDの推進）	公益財団法人Save Earth Foundation	日本全国
耕作放棄地活用/食農環境教育プログラム「小田原農の学校」	NPO法人　小田原食とみどり	関東（神奈川県西湘地域、主に小田原市曽我地区）
湘南タゲリ米プロジェクト	三翠会	神奈川県茅ヶ崎市を主とした湘南地域
Blue Earth Project	Blue Earth Project	日本全国

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第12弾　2018.3）

事業名	団体名	地域
ITを活用した生態系保全活動　日立 ITエコ実験村	株式会社　日立製作所	神奈川
おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト	おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト	岡山
貝殻を活用した里海保全活動～貝殻が海を救う！～	貝殻利用研究会	日本全国
サントリーの愛鳥活動	サントリーホールディングス株式会社	海外、日本全国
植樹活動やブラザーエコポイント、クリック募金による森林の復元と保全への貢献	ブラザー工業株式会社	愛知
生物多様性〈いのちのつながり〉を守るために、てんのうじどうぶつえんができること、個人ができること	大阪市建設局天王寺動物公園事務所	大阪
生物多様性保全に関する日本製紙連合会行動指針	日本製紙連合会	海外、日本全国
地下水涵養事業／地下水保全	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	熊本
トンボ79大作戦　～湖東地域のトンボを救え！～	生物多様性　湖東地域ネットワーク	滋賀
ならやまプロジェクト・歴史的風土特別保存地区における里地、里山の再生と活用による景観形成と環境整備事業	奈良・人と自然の会	奈良
ラムサール条約湿地中池見湿地における「ミニ田んぼサポーター事業」	NPO法人中池見ねっと	福井県
六甲山のキノコの多様性を地域に発信	兵庫県立御影高校　環境科学部　生物班	東京 石川 福井 愛知 京都 兵庫 岡山
わぉ！わぉ！生物多様性プロジェクト	ソニー株式会社	日本全国

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

認定連携事業（第12弾　2018.3）

事業名	団体名	地域
工場の端材を有効活用した　琵琶湖の生物多様性保全活動	積水化学工業株式会社　滋賀栗東工場	滋賀
毛原の森づくり活動「宝の山づくり」-京都モデルフォレスト運動	エスペック株式会社、エスペックミック株式会社	京都
地域との協働ですすめるリコーえなの森里山保全活動	リコーエレメックス株式会社・恵那事業所	岐阜
「くじゅう坊ガツル湿原」一帯における「野焼き」等の環境保全活動	一般財団法人九電みらい財団	大分
マルイファミリー溝口とノクティプラザの共創「屋上緑化で地域と絆づくり」	株式会社丸井グループ　マルイファミリー溝口、みぞのくち新都市株式会社　ノクティプラザ	神奈川
椀子（マリコ）ヴィンヤード生態系調査・植生再生活動	キリン株式会社	長野
森林復元と地域活性の両立をめざした砂漠緑化活動～バケツリレーで未来へつなげる～	日立建機株式会社	中国
和歌山県みなべ町におけるアカウミガメの卵と子ガメを守る活動	ライオン株式会社　大阪工場	和歌山
東京湾UMIプロジェクト・アマモ場再生活動	株式会社高千穂	神奈川

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第13弾　2018.9）

事業名	団体名	地域
伊島のササユリ保全・活用事業	伊島ささゆり保全の会	徳島
自然と共生する里づくり	自然と共生する里づくり連絡協議会	千葉
岡山市生物多様性地域戦略	岡山市	岡山
黒沢湿原保全	黒沢湿原を守ろう会	徳島
桜島どんぐりころころ植樹祭	桜島どんぐりころころ植樹祭実行委員会	鹿児島
自然大好き・生き物大好き・地球大好きな西伊敷っ子を目指して	鹿児島市立　西伊敷小学校	鹿児島
生物多様性CSR活動（希少動植物の保護）	東芝ライテック株式会社 今治事業所	愛媛
人と生きものパートナーシップ推進事業	長野県 環境部 自然保護課	長野
三方五湖自然再生事業	三方五湖自然再生協議会	福井
森づくり県民大作戦	静岡県、公益財団法人静岡県グリーンバンク	静岡
Let’s Try Biodiversity	電機・電子4団体環境戦略連絡会　生物多様性ワーキンググループ	全国

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

認定連携事業（第14弾　2019.3）

事業名	団体名	地域
命をつなぐPROJECT	特定非営利活動法人　日本エコロジスト支援協会	愛知
ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会	群馬県（自然環境課、県立自然史博物館、県立ぐんま昆虫の森）	群馬
鈴鹿山麓フクロウ保護プロジェクト	三重県立四日市西高等学校自然研究会	三重
田んぼ生きもの賑わいプロジェクト	鴻巣こうのとりを育む会	埼玉
『つなげよう　いのちとりどり　誇りの暮らし』	九重町役場	大分
特定外来生物　スパルティナ属の国内根絶を目指す活動	日本スパルティナ防除ネットワーク	日本全国
「弘前だんぶり池」づくり	ひろさき環境パートナーシップ21	青森
椹野川河口干潟等における里海再生活動	椹野川河口域・干潟自然再生協議会	山口
孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト	自然回復を試みる会・ビオトープ孟子	和歌山
わたらせ未来プロジェクト	わたらせ未来基金	栃木

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

認定連携事業（第15弾　2019.10）

事業名	団体名	地域
生態系に配慮した緑化の推進	東京都環境局自然環境部	東京
サステナブル・シーフードの社員食堂への導入	パナソニック株式会社	全国
愛知目標達成のための業種・業態の枠を超えた企業団体による生物多様性保全活動の推進・展開	環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)	愛知
バードフレンドリー®認証コーヒープロジェクト	住商フーズ株式会社	全国
吉野川ひがたファンクラブ	とくしま自然観察の会	徳島
地元の海を広い視点で知り・知ってもらう	三重中学校・三重高等学校	三重
なごや生物多様性保全活動	なごや生物多様性保全活動協議会	愛知
生物多様性の保存及び地域連携の促進	NPO法人祖父江のホタルを守る会	愛知
高校でのネコギギ保全	鈴鹿享栄学園 鈴鹿高等学校自然科学部	三重

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

国連生物多様性の１０年日本委員会　連携事業の認定

認定連携事業（第16弾　2020.04）

事業名	団体名	地域
ＢＩＯＮＥＴ ＩＮＩＴＩＡＴＩＶＥ　（ビオネットイニシアチブ）	三菱地所レジデンス株式会社	関東
日韓NGO湿地フォーラム	ラムサール・ネットワーク日本	全国
自然資本プログラム	コンサベーション・インターナショナル・ジャパン	全国
事業所の生物多様性保全活動	三菱電機株式会社	全国
音声認識技術によるシマフクロウ生息調査の支援	富士通株式会社、富士通九州ネットワークテクノロジーズ株式会社	北海道
東部丘陵生態系ネットワーク形成プロジェクト	東部丘陵生態系ネットワーク協議会	愛知
「おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森」保全活動	日本水産（株）、弓ヶ浜水産（株）、共和水産（株）	鳥取
各主体連携による芦田川水系の希少種スイゲンゼニタナゴの保全	芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会	広島
絶滅危惧植物アゼオトギリの保全活動	アゼオトギリ保全勉強会	三重
外来生物駆除活動	駒沢女子大学アクティ部	東京

※ 各事業の概要や認定のポイントについてはウェブサイトをご覧ください　http://undb.jp/authorization/

企画・制作：IKI・ TOMO 推進事務局（認定連携事業）
国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）